

全明治(學友諸君)

連日報道でよく聞く米軍C121偵察機の日本海一帯へ米軍アリ根動艦隊の大戦が展開されている。厚木基地から飛んでいたC121偵察機は日本の陸海空の三軍の「反共」防衛という極東・アジアの人民抑圧の為の米帝曰主犯者、共同利害ある事を明に暴露した。また、板付基地のRF101戦闘機爆発事件は「市民」による基地撤去斗争の契機をもたらしている。激進する世界情勢の中、とりわけアジアにおいて「沖縄=人民抑圧の島」の問題がクローズアップされている。

## 反革命の拠点=沖縄

左の首相は、67年のジョンソンとの会談の中で、陳の「平和と安全」という最高の階級的共同利害のために、所謂「祖国復帰」が、この国民の悲願は切り捨てるを得ず、しかしその悲願を達成したいならば、当局は「核付き返還を認めなければならぬ」と事実を確認し、「祖国復帰」勢力を返還のためには「核付きもやむなし」という形で自らの手の内に包藏じつゝある。また先の日公においては、所謂非核三原則（持込せず・作らず・持込まず）にふれ、前二者については憲法上の問題であるが、後者については政策の問題であることを強調し、これまでの態度を変え、核つき返還へと固まりつつある。4月12日付の朝日新聞の報道によれば、政府の返還政策は、さしあたっては、本土並・核抜き返還とし、核持込については事前協議とし、その協議においては「Yes」と答えることによって、実質的に核付き返還にすることにはおちついてはおわかれている。駆逐艦などが全くの空白であることは昨年のエー・オラン港の際に核上基としているが、核の返還の近づい

るにもかかわらず、一貫して政府が否定してきたことにも示されている。そしてPATO(海岸警備隊)の創設を強調している韓日・インドネシアは日本の軍力の強化と大巾な援助の増額をもってえんとしている。今年6月日本不開催される予定のAEPA(愛知外相訪米等は意志一致の場である。否それの本からより積極的に返還をコトし、本土・沖縄化=核共存化へと向かいつつある。

反革命階級同盟粉砕の斗争を沖縄労働者階級陣営にて斗争抜け!! オレリアートに日本はない。沖縄のオレリアートの悲惨は、米資本に支配され搾取されているということにどうまるす資本そのものに支配され搾取されていきということである。本土労働者階級と日本帝の沖縄政策とに、日本支配者階級がと共同して対外的大階級支配を維持・剥削しつつ、アジア太平洋圏という独自の封鎖圏を形成するための帝国主義的対外政策があり、日本オロタリアートのみならずその水を含む日韓オロレタリアートの運命対応するものとし、反革命戦争に向むく政策であると云わざるを得ない。そして沖縄労働者人民は、この人民抑圧の島としての沖縄における矛盾を被りつつある。

沖縄人民の斗争は、国際オロレタリアートの運命と直接に結びつきざるを得ず、日本を反革命階級同盟=安保条約に対決するとして、沖縄斗争と斗争抜けなければならない。沖縄の解放なくして日本の解放ではなく、日本の解放なくして沖縄の解放しないものとして展開されねばならぬ。

<下巻>

反台一反共協斗争の発展の上に沿々、南北  
斗争を抜け抜け!!

政治斗争の階級性は、単に外見的複雑性にあるのではなく、それがどこまでフランシスコ・ワジー的社會關係に手を触れているかそれほどフルジョーワ共同体をこえる社會性への共同性=团结をなくとくするかにかかる。すなはち、反台、反共協斗争の「資本の運動の結果に対決する斗争から、集制制度、分业そのものを主張する斗争へと進化しめること、政治斗争を階級的なものにするのである。小市民でさえ、ヘルメットに角杖をもって登場しつゝある。

だが、小市民運動がそれとして固定化されている限り、それは、私的所有一分業を前提としているわけで、プロレタリアートの運動の前進の前にファシズムに云化するか権力の弾圧の前にムカに敗北して行く他はない。

我々は、反台一反共協斗争の中からプロレタリア階級の階級的政治支配能力を示すものとして、沖縄一安保斗争を展開しなくてはならない。

全明治の学友諸君!!

沖縄の労働者と固く团结して全学バリケードストで、26~28斗争を斗いぬこう!!

反台一反共協斗争の  
軍事階級同盟と  
世界アリナリズム  
に、國情で前進せよ!

- 日本者階級と連携し、アジア反革命者=沖縄解放せよ
- 軍事撤去! 安保条約解消!
- 分业生=反共協同路線粉碎
- 4.30午後7時半、小21 文部次官通達!
- 全国学園争勝利!
- 学校官廳主生部を解体せよ!